

第40回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009年11月21日～23日（金沢大学）

セッション討議内容の記録

セッション名： 経済分析（3）	
日付： 11月21日（土）曜日，セッション時間： 16：45～18：15	
司会者名（所属）： 塚井誠人（広島大学）	
討 議 内 容	セッション全体： 討議時間不足のため，議論無し．
	（88）関口翔太（東京大学）： 論点など：現状とモデルとの比較をすることで、モデルの整合性を高め、現実に即したモデルに改善したい。また、今後取り組むべき方針についても議論したい。 ・インフラ投資期間と広告効果が現れる期間が、モデルの中で同一と仮定されている（1期）のは違和感がある． ・この種の問題では、アクセスチャージの額によってインフラのメンテナンスができるか否かの見当が重要ではないか？（このモデルでは、考慮されていない） ・企業の参入・撤退を含む（Nash）均衡分析によって、独占の可能性を分析する必要があるのではないか？ この分析では、ネットワーク産業を活性化させる観点から、アクセスチャージの制御に着目している． ・実際のネットワーク産業を考慮すると、市場が飽和している可能性がある．利用者数や利用頻度に制約を加える必要があるのではないか？
	（89）横松宗太（京都大学）： 論点など："Opportunity-based learning"の構造について、防災 R&D（研究開発）のフィードバックが平常時と災害時の間で具体的にどのように働くのかについて、参加者より指摘を頂きつつ議論したい．また国の発展段階に応じて防災投資配分はどのようになされるべきなのかについても規範的・実証的に議論したい． ・（冒頭に発表者から、論文投稿時からモデルの改良を進めた結果、モデルフレームを修正・変更したとの発表有り） ・この研究は、平常時の災害研究／非常時の災害研究，としてモデルを定式化しているが、基礎研究／応用研究のフレームで議論してもよいのではないか？ ・災害に対する限定的な知識に基づいて最適投資はできないので、災害発生による災害対応技術の学習過程を考慮したアプローチが考えられるのではないか？ ・構造を複雑にして現実を記述するモデリングか、シンプルながらこれまで指摘されていない課題を指摘するモデリングか、方針をはっきりすべき（後者の方が望ましいのでは？）
	（90）今井瑛介（京都大学）： 論点など：ナッシュ均衡解と社会的最適解を解消する枠組みとして考えている災害債

権を実際に導入することは可能かどうか。他にどのような枠組みが考えられるか。

- ・ 港湾整備に関する変数は、確率変数として取り扱われているのか？

現在は、確定的な変数と考えている。

- ・ 2港が異なる国に属する場合、災害保険の可能性はないのではないか？
- ・ 平常時も災害時も2港のうち一方の利用を前提としているが、より多くの港が存在する状況下で災害が発生すると、被災していない港に転換するのではないか？

この研究は、港湾の機能ダウンによる外部性を内部化するための方略として相手国の被害を補償する保険を導入する、という点にポイントがある。今後多港化（多主体化）したモデルに展開したい。